

資料館  
0  
45  
2.8

研究叢書



東京帝國大學助教授 文學士 青木誠四郎研究  
東京女子專門學校講師

裁縫に於ける運針の重要性に就て

渡邊女學校  
東京女子專門學校  
研究部

裁縫に於ける  
運針の重要性に就て

## 序

衣服を仕立てる上に 運針と云ふ作業の欲くべからざることは 三歳の童子も辨へてゐるところで 之がため裁縫教授に於ては 此の作業が重要視され常に兒童生徒にその練習を課してゐます 然し運針が裁縫成績と どれだけ密接な関係があるかと云ふ點に就ては 從來 精密な調査が出来てゐません 唯『縫はなければ着物にならないから』と云ふことだけで 常識的に考へられてゐたに過ぎません 此の報告書は 是等の點に就て 運針の各側面から裁縫全体の成績との関係を調査した結果であつて 之に依て 裁縫に於ける運針の地位も相當明かになり 又 運針といふ一つの動作に含まれる諸種の性質も究められ 運針練習には勿論 裁縫教授にも大切な示唆を與へるものと信じます

昭和十一年二月一日

東京女子専門學校長 渡 邊 滋  
渡 邊 女 學 校 長

## 目 次

一 問 題	.....( 1 )
二 研究の方法と条件	.....( 2 )
三 運針作業の構造	.....( 4 )
四 裁縫成績と運針	.....(10)
五 結 語	.....(20)

# 運針成績と裁縫成績との関係

—裁縫に於ける運針の重要性に就ての一実験—

## 一、問題

今日の裁縫教授の実際を見渡してみると、小學校高等女學校を通じて、所謂運針—即ち串縫—の練習については、相當に多くの時間を割いて、その成績を向上させるために、努力してゐると云つてよい。そして、その運針練習も、兒童や生徒に一定の時間にどの位の長さを縫へたかを、測らせては記録をとると云つた風で、速度を進歩させる事に重きをおいてゐるのが普通のやうである。

このやうな事から考へて見ると、一般に裁縫の教授で、この運針、就中その速さが上達すれば、裁縫全体の技術が向上するものと見られてゐると云つてもよいのではなからうか。勿論、運針のできないものが、裁縫が出来るとは思はれない。併し、果して、この運針、殊にその速さが向上することが、直ちに裁縫の成績を向上させるものになるかどうか。そこに一つの問題がありはしないだらうか。

わたくし達は、この意味で、まづ運針成績の良い、わるいが全体の裁縫の成績にどれだけ関係があるか、これを問題にして、これまで、常識的に考へられてゐたことを、再吟味して見たいと思ふ。

だが併し、この関係を究めて見る前に、運針と云つても、いろいろな側面のある事を考へなくてはなるまい。運針には速さ

## 目 次

(1)	.....	目 次	一
(2)	.....	裁縫と運針の練習	二
(3)	.....	裁縫の練習と速度	三
(4)	.....	速度と裁縫の練習	四
(5)	.....	裁縫の練習	五

と云ふこともある。が、また、その運針が真直に縫へるかごうかの歪みの問題と、針目が揃つてゐるかごうかの齊一度の問題もある。たゞへば、運針成績の向上が、裁縫成績の向上に關係があるか云つても、これ等の全体が關係があるのか、もしくはその一つの方面の向上に關係があるのか、そこに究めなくてはならぬものがある。だから、わたくし達は、まづ運針と云ふ働きの性質がどんなものであるか、云はゞ運針運動の構造を明かに、しなくてはならないのである。

かやうにして、わたくしは、まづこの運針の働きが、どのやうな側面をもち、これ等の側面が どのやうに關係し合ふかを明かにし、次にこれ等のいろいろな運針の側面が、裁縫全体の成績と、いかなる關係にあるかを明かにしようとして、こゝに一つの實驗的な調査を試みたのである。望むところは、上述の問題の解明に一つの歩みを作り度いと思ふに他ならないのである。(註)

(註) 勿論かゝる調査は、一つの調査で、全般に亘つて、たゞ一つの示唆を與へるものではあるが、斷言するものではない。今後同じやうな實驗の多くが、重ねられて、はじめて確定的なものとなるものである。この点は、この研究結果を讀まれる人々に特に考へて頂き度いところである。

## 二。研究の方法と條件

この調査研究にあつて、實驗を課した兒童は、東京市神田區にある某々小學校二校の尋常五年生百六名である。

(兒童をこのやうに二校で求めたのは、最初、學校の教授の方針の違ふので、兒童の示す結果に相異があるだらうと豫期したからであつたが、實際にはその差を見ないので、こゝではこれを一團として取扱ふことにした) この兒童が、尋常五年生のみであることは、この研究の結果に、一つの特別なものがあるかも知れないことを考へさせるものがある。と云ふのは、これ等の兒童は、まだ裁縫をはじめて、わづかに二年に足らないのである。だから比較的長く裁縫を學んだ高等女學校の上級生徒などでは趣の異つたものが見られるかも知れないのである。これ等の兒童に運針を課したのは、昭和十年一月三十一日より、二月二十八日に至る間であつて、この間、月、木、の兩日五分間づゝの運針練習をなし、二月二十八日に五分間の運針検査を行つたのである。この場合特に運針の速さだけに重きをおかないやうに、その質にも注意するやうに促したことは、こゝに附け加へておく必要がある。

一方、かやうに運針の検査をすると同時に、これを解釋する資料とするために、國民智能検査を課して、これ等の兒童の智能を、集團的に調査する事とした。而して、裁縫の成績は昭和十年第一學期(四月から七月まで)即ち尋常六年の第一學期の裁縫の技術について特に注意して裁縫の擔任の教師で採点したものをもつて、この調査の資料とした。(註)

(註)

この場合、この檢せられた、裁縫成績が、正しいものか否かには大きい問題がある。元來技能科の採点には種々な困難な問題があつて、その合理的な採点をどうしなければ

ならないかは、今日尙明かだとは云はれない。こゝで、裁縫成績と云ふものは、この問題とすべきものをそのまま含んでゐる、いはば教師の常識的な採点によるものである。従つて、もし、裁縫作品の成績評定にこれこれの点を見てかくかくの方法で採点すべきであると決する時があれば、この研究の裁縫成績と運針成績の關係に異つたものが見られることは、後に述べるところでも明かにされよう。併し今日の常識的採点に於ては、こゝに述べる結果は、多くの場合に、あてはまるものと思はれる。

### 三、運針作業の構造……運針はいかなる働きて營まれるか。

まづ、運針の働きが、どのやうな働きから成りたち、それらが、どんな風に關係し合つてゐるのか、と云ふ点から窺つてゆきたいと思ふ。

運針の働きがどんなものであるかを考へるのには、種々な見方があらう。が、わたくし達は、これを運針と云ふ作業について、裁縫科として要求してゐるところから見てゆき度いと思ふ。この要求としてあげられるものは、まづ第一が運針運動の速さである。第二は、この運動に動搖がなく、糸が曲らずに眞直に縫へること、第三はこの運動の幅が一定してゐて、不平均にならないこと即ち針目の揃ふこと、があげられやう<sup>(註1)</sup>。そこで、これ等の働きが、どんな風に關係し合つてゐるかを、運針成績の上から見てゆかう。

まづ、運針の速さであるが、これは、針目の數で知られる。

第一表

速 度	人員
370—351	3
350—331	2
330—311	2
310—291	1
290—271	5
270—251	3
250—231	13
230—211	16
210—191	22
190—171	15
170—151	13
150—131	10
130—111	2
110—	1
計 108	
平 均	209.2

第二表

齊 一 度	人員
.21—.25	3
.26—.30	6
.31—.35	3
.36—.40	14
.41—.45	18
.46—.50	17
.51—.55	16
.56—.60	18
.61—.65	7
.66—.70	2
.71—.75	2
計 106	
平 均	0.48

第三表

歪 み	人員
50—	4
51— 60	2
61— 70	3
71— 80	7
81— 90	8
91—100	15
101—110	15
111—120	12
121—130	10
131—140	8
141—150	7
151—160	5
161—170	2
171—180	1
181—190	3
191—200	2
201—210	1
211—	1
計 106	
平 均	114.9

いまこれ等の兒童の五分間の運針針目の數を調べて見ると第一表のやうである。これを標準錯差で優劣を分けて、各段階の人數によつて曲線を描いて見ると、第一圖のやうである。(次頁参照)

更に、運針の歪みを見、齊一の度を見るとその示されるものは、第二表及び第三表のやうで、これを前同様にして、優劣の段階を作つて見ると、第二圖のやうになる。(次頁参照)

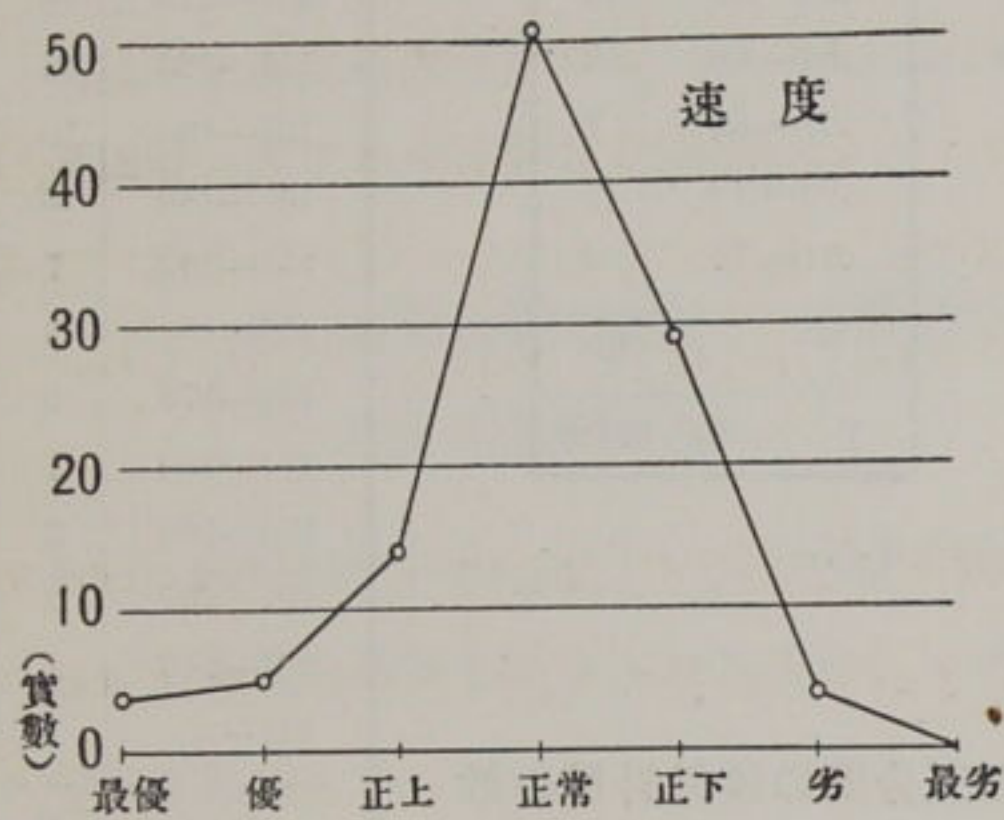
これ等三つの側面の優劣を示す曲線を見ると大体は正常の蓋然曲線をなしてゐるから、これ等の間の相關關係をピアソン、ブラベールの公式

$$r = \frac{\sum xy}{\sqrt{N\sigma_x^2\sigma_y^2}}$$

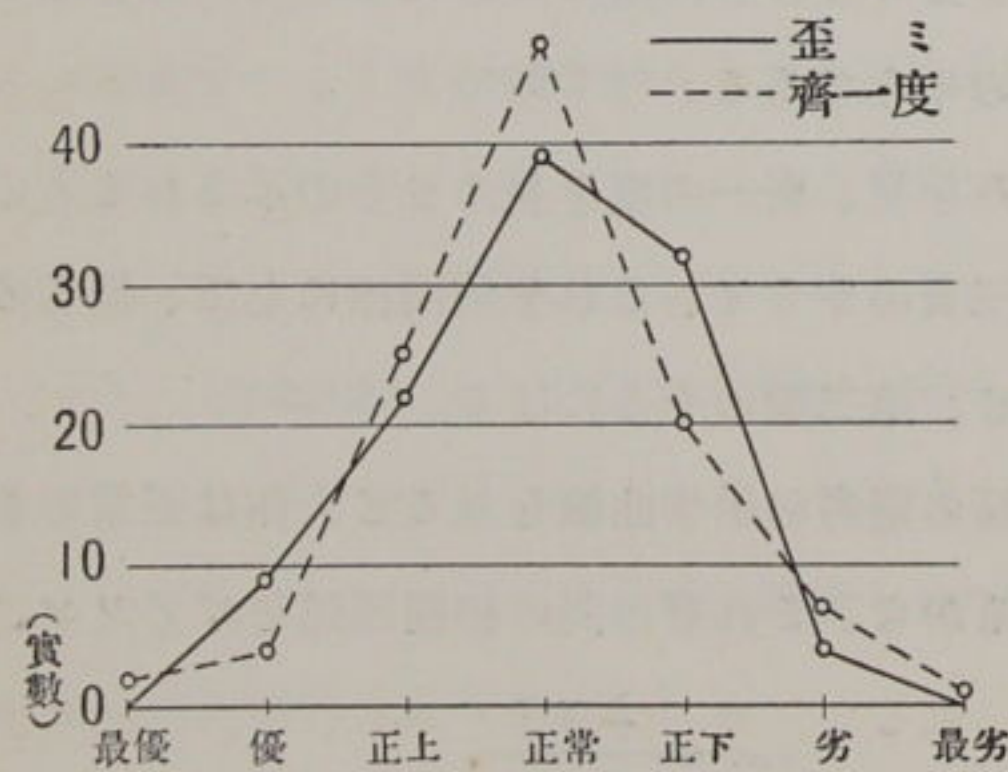
によつて、見る事ができるわけであるが、<sup>(註3)</sup>  
算出して見ると、

速度と歪み、	+0.15
速度と齊一度、	+0.13
歪みと齊一度、	+0.55

第一圖



第二圖



その相関係数を

となる。勿論、  
程度の問題では  
あるけれども、  
この係数の示す  
ところは、速度  
と歪み、及び齊  
一度とのなす關  
係は割合にうす  
いが、歪みと齊  
一度とでは、か  
なり濃い關係が  
あることを語つ  
てゐる。つまり、  
速度と云ふ量の  
多少と、歪み、  
齊一度と云ふ質  
の良否との間に  
は、あまり關係  
がないが、質同  
志とも云ふやう

な歪みの多少と齊一度の多少との間には一致したものが見られ  
ると云ふのである。これをもう一度言ひ換へると、速さの速い  
運針をする人の運針の成績は、強ち質が悪いのではないが、併  
し良いとも云へない。速さは比較的獨立した働きである。併し  
歪みの少い兒童は、多くの場合針目も揃つてゐると云つた關係  
が成りたつてゐると云はれるわけである。

このやうな結果から云ふと、いま運針の練習をする場合に、  
速さ速さと、やかましく云つて速さを向上させても、運針の質  
は、これとは無關係で、あまり向上しない。運針の指導には兩  
方面のことが考へられねばならない。と云ふことになるわけ  
である。

それならば、この兩面はどんな点に相異をもつてゐるのか。勿  
論速度は運動の速さを示すものであり、歪みや齊一度は運動の  
調整如何を示すものであるには相異なるのであるが、これ等と  
智能とはどんな關係にあるだらうかと云ふことも、その相異の  
一つをなすものと云つてよい。

この問題は、運針作業が智能的なものであるか、どうかを語  
るもので、さきにわたくし達が明かにしたやうに裁縫全体の成  
績の智能的なものであること、對比して<sup>(註4)</sup>、運針そのもの、性  
質を示唆するものとなる筈である。

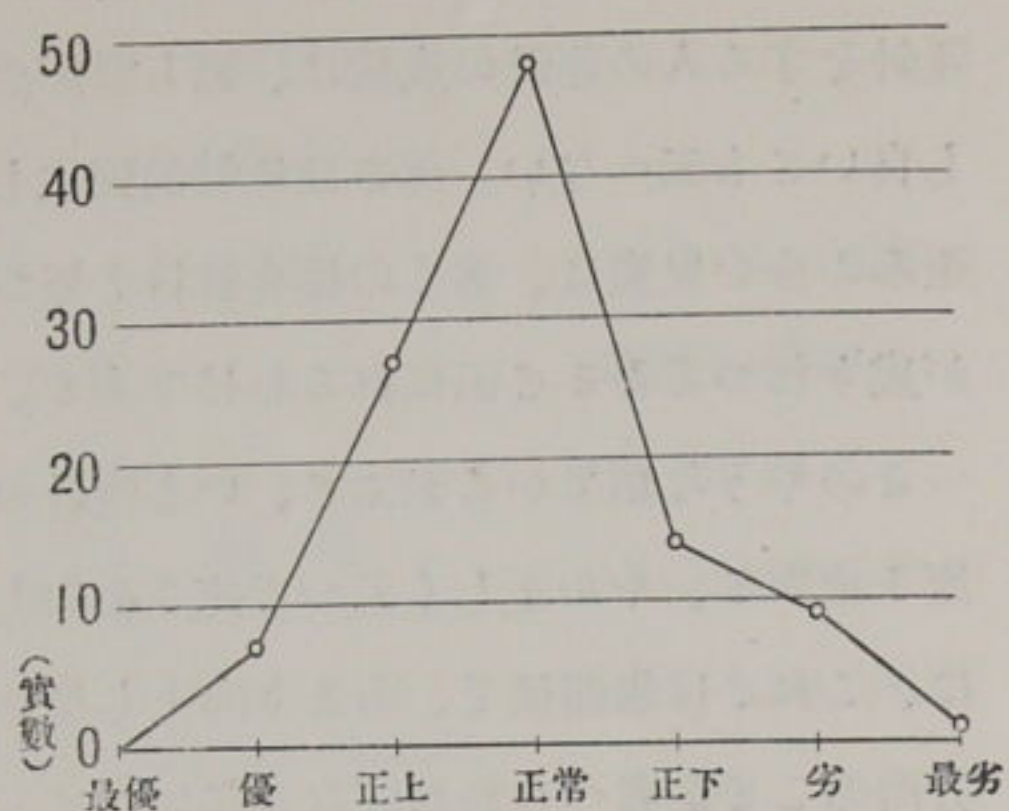
いま、まづ、これ等兒童の國民智能検査の成績を點數にしてそ  
の分配を見ると、第四表のやうで、これを前と同様に、標準錯  
差で、優劣を分けて見ると、第三圖の如くであつて、これもま  
た正常分配に近い。(次頁參照)



第四表

點 數	人員
151 以上	2
140—150	5
130—139	6
120—129	10
110—119	23
100—109	15
90— 99	21
80— 89	7
70— 79	2
60— 69	8
50— 59	4
40— 49	2
39 以下	1
計	106

第三圖



そこで、智能とこれ等速度、歪み、齊一度との関係を相関係数によつて示して見ると、

智能と速度	+0.30
智能と歪み	+0.07
智能と齊一度	+0.13

となる。

この示すところを見ると、運針の速さと智能との間には、いく分関係のあるのを認めることができるが、その他では、殆んど関係らしい関係を見出すことはできないのである。だから、運針の速さはやゝ智能的なもので、智能の高いものでは比較的速く、智能の低いものでは、比較的遅いと云ふことができるのであるが、質の良いものが智能が高いとか、質の悪いものに智能の低いものが多いと云ふやうな事は、云はれないと見なくて

はならない。これをもし、も少し進んだ推定が許されるならば、運針速度はやゝ智能的なものであるが、其の質は、手先の問題たることが多いと見ることはできはしまいか。

わたくし達は、こゝにも、少くとも、運針の質と量とは、相当隔たつた働きであることを知る事ができる。

このやうな結果から見ると、運針の練習にその量を向上させることゝ、質を向上させる事を、同時に望むことは、よほど困難な事と云はなくてはならない。つまり量の向上を考へると質の方は、おろそかにされる恐れがあり……退歩するのではないが……質の向上を考へると、量の方は、これまた、おろそかにされることが多いと云はなければならぬ。そこに運針教授上の問題が、潜んでゐると云ふことができよう。

運針教授にあつてこの二つの側面で、どちらを先にしなければならぬかは、遽かに決することは難く、尙實證を必要とするのであるが、これを大体から云へば、まづ質に注意して、その運動の正しい調整を學習させ、然る後にこれを更に反復練習せしめる事が、必要なのではあるまいか。でなくて、その反対のやり口をさると、はじめの調整の正しくない運動を練習する事によつてその正しくない運動調整の形を固定するおそれがあるからである。

(註1)

運針に於て要求されてゐる事に、なほ、運針の流れを少くする事がある。即ち、布に對して直角に針を刺すやうに、運動を調整する事である。ただこれは、かゝる初歩の運針では測定することは、殆んど不可能であるので省くことゝした。

(註2)

標準錯差で優劣を區別して段階づける方法は、種々あり得るのであるが、こゝには算術平均を中心にして、次のやうな區分によつて、その優劣の段階を定めたもので、最も普通の方法である。

算術平均 + 1/2 標準錯差より,	算術平均 - 1/2 標準錯差の範圍,	正 常
算術平均 + 1/2 標準錯差以上,	算術平均 + 1 1/2 標準錯差まで	正常上
算術平均 + 1 1/2 標準錯差以上,	算術平均 + 2 1/2 標準錯差まで	優
算術平均 + 2 1/2 標準錯差以上,		最 優
算術平均 - 1 1/2 標準錯差以下,	算術平均 - 1 1/2 標準錯差まで	正常下
算術平均 - 1 1/2 標準錯差以下,	算術平均 - 2 1/2 標準錯差まで	劣
算術平均 - 2 1/2 標準錯差以下,		最 劣

(註3)

頻數分配曲線が、正常蓋然曲線の形をもつ場合にこのピアソン、ブラベアの Product moment method を用ひて相關係數を算出することができるのである。

(註4)

昭和九年三月渡邊學園研究部發行の『技藝學科の成績と智能との關係に関する研究』を参照せられたし。

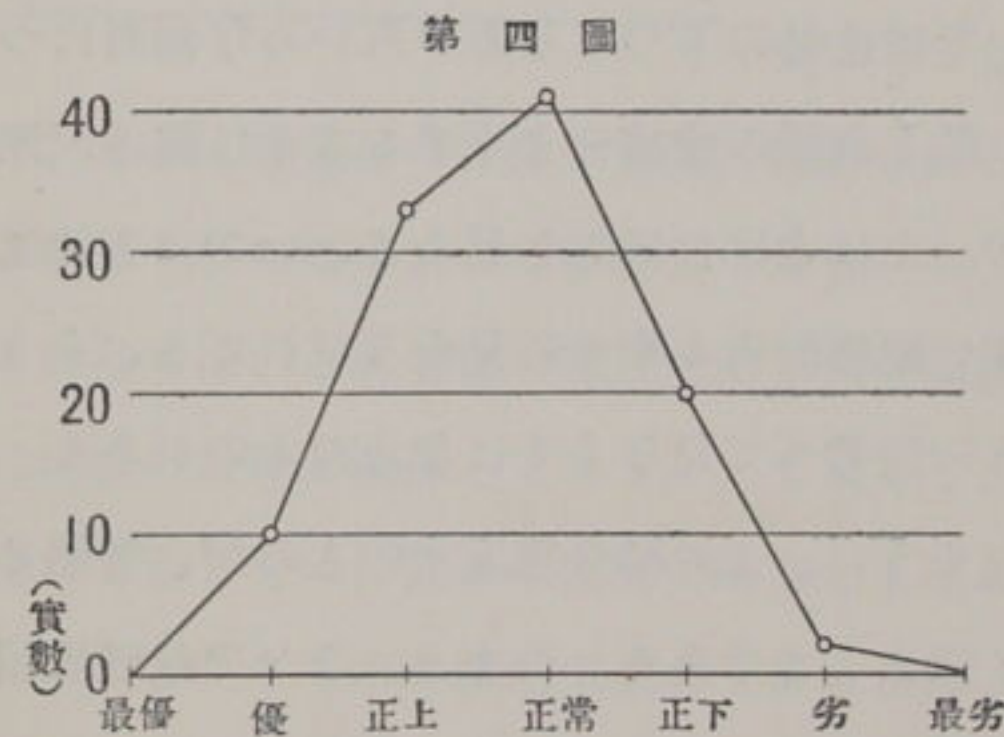
### 三、裁縫成績と運針

以上の結果は、運針そのものが、ごんな性質を有つてゐるか、またその性質の故に、その量と質との兩方面から考へなくてはならぬものゝある事を示してゐるのであるが、それならば、かう云ふ運針の成績は、裁縫全体の成績と、ごんな關係があるだらうか。も少し言葉を進めて云へば、裁縫と云ふ一つのまごま

つた仕事を仕上げてゆく場合に、この運針の上手、下手が、これにごんな風的關係をもつてゐるか云ふことが、次の大切な問題になつて來る。

こゝで、さきに述べたやうにして、ごつた裁縫の成績が、ごんな性質をもつてゐるか。それが果して、正しい成績の評定であるべき性質を具へてゐるかごうか。ご云ふことは、勿論、まづ考へて見なくてはならないところであるが、それは、直ちに決することのできないところである。そこでこゝでさしあたり、これをそのまゝ裁縫の成績として、うけとつて、これを技術の良否を示すものと見做してゆくこととする。

まづこれ等裁縫の成績點數についてさきと同じやうにして、優劣の段階を定めると、第四圖の如く、少し優れる方へ歪んで



ゐるが大體は正常の分配をしてゐる。そこで、これと、運針の各の側面の成績とを關係させてその相關係數を算出して見る

と、

裁縫成績と速度 +0.32

裁縫成績と歪み +0.23

裁縫成績と齊一度 +0.22

となつて、いづれも、多少の関係をもつてはゐるが、これを

裁縫成績と智能との関係 +0.55

に比べて見ると、いづれも、はるかに少いのである。

かうして見て來ると、裁縫全体の作業のよくゆくかごうかに對しては、運針の上手、下手、速さも、関係はあるにはあるが、智能の高さの深い関係に比べるとはるかに少いと云はなくてはならない。言ひ換へると、裁縫の全体をよく作つてゆくには、運針も関係はあるが、それよりも、よく判断し、よく推理し、よく工夫してゆくことの方がより大切だと云ふことになる。だから運針を速かにし、正しくすることは、裁縫の成績の向上にある程度の役にはたつが、これよりもよく頭をはたらかせるやうにすることが問題になると云はれる。

そこで、次に、では運針のもつてゐるいろいろな側面について、どの方面が、最も裁縫の成績をよくすることに関係が深く、どの方面が浅いか。上にあげた係数を見ると、いかにも速度の速いか遅いかと深い関係があるやうに見えるけれども、さう考へるのには、もう一段考へて見なくてはならぬものがある。それは、さきに見たやうに、この場合速度そのものが、智能と関係が比較的高いと云ふことである。つまり、こゝで裁縫成績と運針速度と関係の深いのは、この兩方共、共通に智能に左右されてゐるものがあるから、純粹にこれ等運針のいろいろな側面と、裁縫の成績との関係を見るには、智能の差から來るものをぬいて見なければならぬのである。

そこで、こゝに智能の関係から離れて、裁縫の成績と、これ等運針のいろいろな側面との関係を考へて見るために、智能正常なもの四十八名について是等の関係を窺つて見ることとする。

まづ第一に速度であるが、この速度と、裁縫成績との関係について相關表を作つて見ると、第五表の如くなる。

第五表

速 裁	最 優	優	正 上	正	正 下	劣	最 劣	計
最 優								
優			1					1
正 上			1	7	5			13
正		2	1	13	7			23
正 下				6	4	1		11
劣								
最 劣								
計		2	3	26	16	1		48

これをその計の欄に於て見て、何よりも先に氣づくことは、裁縫成績の差の少いことである。これはいかに裁縫成績が智能に左右されてゐるかをよく語つてゐるものである。しかも速度の差は、相當に廣く優劣を異にしてゐるのが見られる

ので、これも亦運針の速度が智能に左右される處の比較的少いことを示してゐると云つてよいのである。

それならば、この智能の同程度の兒童の裁縫成績は、どの程度に速度の成績と関係してゐるか。と見ると、裁縫成績の比較的優れてゐるものに運針の速度が必ずしも速かなわけでもない、やゝ劣つてゐるもの十四名中五名もあるのに、優れてゐるものには二名に過ぎない。これ等の相關係数を算出して見ても

+0.17

で、さほどの関係があるとは云はれない。たゞ、裁縫成績の劣つてゐるものに、運針の速さの優れてゐるものが、無いと云ふ

点だけはこゝに注意しておくべきものがあらう。

かやうにして、智能の同様な児童の間には速度の速かな事が必ずしも成績をよくしないと云ふことが示されてゐるのである。これは一步進めて云へば、速度の向上が、必ずしも裁縫成績をよくしないことを語ると云つてもよい。

次に歪みと裁縫成績との関係を、相關表にして見ると、第六表のやうで、こゝでは、その関係がやゝ見られる。即ち裁縫成績

第六表

歪裁	最優	優	正上	正	正下	劣	最劣	計
最優								
優			1					1
正上		3	2	5	3			13
正		2	4	7	10			23
正下				7	3	1		11
劣								
最劣								
計		5	7	19	16	1		48

第七表

齊裁	最優	優	正上	正	正下	劣	最劣	計
最優								
優			1					1
正上			2	9	1	1		13
正	1	2	4	11	5			23
正下			2	4	4	1		11
劣								
最劣								
計	1	2	9	24	10	2		48

績正上以上のもの十四名のうち、六名は歪みが正上以上であり、しかも正下にあるものは三名を數へるに過ぎず、裁縫成績正下のもの十一名のうち、正上以上に歪みの少いものは皆無であるが、正下以下はこれを四名數へるのである。その相關係数を算出して見ると、

$$+0.32$$

で相當の關係が示されてゐるのである。いはゞ歪みの少いことが、裁縫成績をよくしてゐる場合が比較的多いと云はれるのである。

更に齊一度について、こ

れを裁縫成績との關係を見ると、第七表のやうで、こゝでも、またその關係の稀薄な事が示されてゐるのである。その相關度を示す相關係数のやうなものも

$$+0.13$$

であつて、速度とのなす關係と略似てゐるのである。

これ等三つを通覽して見ると、同じ智能であるとするれば裁縫の成績にいちばん關係の深いのは、運針の歪みの多少であつて、速いとか、針目が揃つてゐるとか云ふことは、大した關係はないと云ふ事になる。これはおそらくは、裁縫成績そのものゝ見方に原因するものがあらう。つまり裁縫の成績は、縫ふ速さをあまり問題にしてゐない。ある時間内に成功すればよいからである。しかも亦おそらくは、縫つたものゝ針目の揃つてゐる事は、運針についてこそ注意されるが、裁縫したものについては、あまり問題にされないで、たゞその真直にきちんと縫へてゐるかどうかと問題にされ易いのではなからうか。これは裁縫の製作品についての成績の見方に於ける問題のあることを、示してゐると云つてもよいのであるが、こゝの問題としては、とにかく歪み少く縫へる事が、最も裁縫成績を向上させるものとなつてゐると見る事ができる。さきに述べたやうな運針教授の見方が、速さの向上に重きをおくことは、こゝに反省させられるものがある、と云つてよいのである。

以上は、運針の側面を分けて見た場合のことである。併し運針は、一つの全体的なものだから、これ等三つの側面の關係しあつたものとして見なくてはならないものがある。そこで、

この三つの側面の全体の状態から、その裁縫成績に於ける関係を見るために、これ等三つの側面の成績が正常か、正常以上(優)か、正常以下(劣)かを區別して、これが智能同一のものうち裁縫成績の比較的優れてゐるものと、その劣つてゐるものごに  
 ごんな状態に存してゐるかを見ると、第八表の如くである。

第八表

裁縫成績 運針成績		優れたもの		劣れるもの	
		實 數	%	實 數	%
優れた点をもつもの	速、歪、齊、共優。	1			
	速、歪、優、齊、正。	1			
	速、正、歪、齊、優。	1	35.7		9.1
	速、齊、正、歪、優。	1		1	
	速、歪、正、齊、優。	1			
正常	速、歪、齊、共正。	1	7.2	1	9.1
劣つた点をもつもの	速、齊、正、歪、劣。	2		1	
	齊、歪、正、速、劣。	2		1	
	速、歪、正、齊、劣。			2	
	齊、正、速、歪、劣。	1	57.2	1	81.9
	歪、正、速、齊、劣。	1		1	
	速、正、歪、齊、劣。	1		1	
	速劣、歪劣、齊劣。	1		1	
	速、歪、齊、共劣。			1	
計		14	100	11	100

これを見るに、絶對的ではないが、優れた成績のものには、運針の上で何等か優れた点をもつてゐるものが多いのである。

この点から見ると、智能の同じ状態にあるものでは、就中その歪みが問題になるのではあるが……現に優れたもので運針の長所をもつもの、歪み五、速度二、齊一度三となつてゐるやう

に……運針に長所のある事は、裁縫の成績をよくし、その欠点あることは、裁縫成績を悪くするものある事を考へなくてはならないのである。この意味で、運針の上達が、裁縫の技術の向上に役立つものと云ふことのできるものがある。勿論運針さへ上手であればと云ふのではないが。

以上の観察は、智能の普通なものに於て見られたところであるが、智能の高いもの、また低いものでは、ごんな関係が見られるか。殊に智能高くして裁縫成績の低いもの、また智能低くして裁縫成績の高いもので、ごんな関係が、運針ごの間に成りたつてゐるか。これ等は、上の結果を吟味して見る一つの見方をなすものと云ふ事ができよう。

まづ、正常以上の智能を有つものについて、その裁縫成績と運針のいろいろな側面ごの関係を相關表として見ると、第九表の諸表に見るやうである。これに就いて、裁縫成績の正常及び正常以下のもの(即ち智能に比して低いもの)十名の運針成績を見ると、

	速 度	歪 み	齊 一 度
正常より優れるもの	4(人)	2	4
正常より劣れるもの	4	3	2

となつて、その関係は、さう明瞭ではないが 歪みの優れたもの、少いこと、その劣れるものがこれに比して多いことは、速度、齊一度と趣を異にして、さきに智能正常なものについて見た結果とや、似たものを示してゐると云つてもよいやうである。<sup>(註1)</sup>

更に、智能の劣つたものについて、この関係を見るためにや

はり相關表を作つて見ると第十表の諸表のやうである

第九表

速裁	最優	優	正上	正	正下	劣	最劣	計
最優								
優	2	1	2	4				9
正上	1	1	3	8	1	1		15
正			3	1	3			7
正下		1		1	1			3
劣								
最劣								
計	3	3	8	14	5	1		34

第十表

速裁	最優	優	正上	正	正下	劣	最劣	計
最優								
優								
正上				4	1			5
正	1		1	6	3			11
正下			1	2	3			6
劣					1	1		2
最劣								
計	1		2	12	8	1		24

歪裁	最優	優	正上	正	正下	劣	最劣	計
最優								
優			4	4	1			9
正上		2	3	4	4	2		15
正			1	4	2			7
正下			1	1	1			3
劣								
最劣								
計		2	9	13	8	2		34

歪裁	最優	優	正上	正	正下	劣	最劣	計
最優								
優								
正上			3	1	1			5
正		2	2	4	3			11
正下				1	4	1		6
劣			1	1				2
最劣								
計		2	6	7	8	1		24

齊裁	最優	優	正上	正	正下	劣	最劣	計
最優								
優		1	5	3				9
正上		1	3	6	4	1		15
正			4	1		2		7
正下			1	2				3
劣								
最劣								
計		2	13	12	4	3		34

齊裁	最優	優	正上	正	正下	劣	最劣	計
最優								
優								
正上				3	2			5
正	1		3	5	2			11
正下			1	2	2	1		6
劣				1		1		2
最劣								
計	1		4	11	6	2		24

こゝで、裁縫の優つたもの五名について運針の、諸側面の優つたものと劣つたものを見るに、<sup>(註2)</sup>その結果は上のものと逆であつて、次のやうである。

速度 歪み 齊一度

正常より優れるもの 0(人) 3 0

正常より劣れるもの 1 1 2

となつて、成績の優つたものには明かに、歪みの少いものが多いことが示されてゐるのである。

これを、前に見たやうに、三つの側面を綜合して、これ等の智能に比べて、成績の劣つてゐるもの、及び智能に比べて成績の優つてゐるものが、

第十一表

ごんな風の運針成績を有つてゐるかを調べて見ると右の第十一表のやうになる。その割合から見ると、

裁縫成績 運針成績		劣れるもの (智能優)		優れるもの (智能劣)	
		實 數	%	實 數	%
長所をもつ	速歪 優。齊正。	1			
	速齊 優。歪正。	1	20		20
	速齊正。歪優。			1	
欠点をもつ	速齊正。歪劣。	1		1	
	齊歪正。速劣。	1	40		40
	速歪正。齊劣。	1			
	劣 の み	1		1	
欠点と長所をもつ	速劣。歪正。齊劣。	1			
	速劣。歪優。齊正。			1	
	速劣。歪、齊優。	1	40		40
	速齊 優。齊優。	1			
	速優。歪正。齊劣。	1			
速正。歪劣。齊劣。			1		
計		10	100	5	100

ると、關係は不明である。人數が少いからであらう。たゞ前の

ものと考へ合せて見ると智能の優れてゐるものでも、とにかく何等かの点で運針に缺點をもつものは、成績のわるくなる場合の多い事は、確かであらう。そしてこの点で歪みが多く問題をもつことになる。智能の劣つてゐるものでは、運針に欠点をもち易いのはあるが、そこで成績をよくするものとしては、歪みの優れてゐることが、大切な役目を果してゐるのだと考へられるのである。勿論、さう明瞭ではないが。

このやうにして、智能の同じやうな兒童について、その運針のいろいろな側面の成績と、裁縫の成績との関係、またそれ等の綜合されたものと、裁縫の成績との関係を見て來ると、まづ裁縫の成績が優るには、運針のどの点にか長所をもつ事が必要であり、これに欠点があると、さかしく裁縫成績は劣り易いことがわかる。そしてこの長所とし、欠点として、最も重きをなすものは、これ等兒童の裁縫成績としては、歪みの多少であることが知られたわけである。

(註1) この場合は相関係数は算出しなかつた、それは人數の少ないこと、その個人の差の分配が偏つたものをもつてゐるからである

(註2) この場合は、正常上の優れたもののみとした、併し智能の優れたものでは、人數の関係上正常下三名、正常七名をとつた、従つて、この比較は完全な比較にはならない。

#### 四、結 語

以上のやうにして、わたくし達は、これ等の實驗的な調査によつて、次のやうな事を確かめる事ができた。

一、運針においては、その速度と、質とは、やゝ離れた働きで、たゞその一方だけを重く見るとか、代表的なものを見る事

はできない。

二、運針の成績が、裁縫の成績の良否に關係する度は、智能の高低の關係する度に比してはるかに低い。従つて裁縫の成績の向上に關しては、できるだけ智能を働かせるやうに誘導する事が第一で、運針の重要さは第二であらうと云ふことが暗示される。

三、併し、運針の良否は、智能が同一の程度にあるとすると、相當に裁縫成績を左右する。運針のいろいろな側面のごとくに長所をもつこと、ごとくに欠点をもつことは、裁縫成績を優れさせ、劣らせることになり易いものがあるが、就中歪みの多少は、この關係が深い。これも運針指導、ひいては裁縫教授の上の一つの示唆をもつてゐる。

勿論、これ等の關係は、裁縫成績なるものが、智能の如何に左右される他、興味の有無とか、これに努力するかどうとか、作品の美醜についての判断の正否とか、さまざまなものから定まつて來るものがあるのだから、さう簡単に、はつきりとしたものは、かう云ふ調査には示されては來ない。併し、その大体の示す傾向は、上のやうになつてゐるのである。今後様々な点から、これ等が研究されて來るに従つて、一層明瞭さを加へるものと信せられるのである。

## 研究叢書

東京帝國大學助教授 文學士 青木誠四郎研究  
東京女子專門學校講師

### (1) 技藝學科の成績と智能との關係に関する研究

定價金三十錢 送料二錢

東京女子專門學校教授 乾 ミチエ研究

### (2) 十二單及び袴の色目の研究

定價金三十五錢 送料二錢

東京女子專門學校教授 牛込ちる研究

### (3) レースと毛皮との研究

定價金三十五錢 送料二錢

東京女子專門學校教授 小野ミノル研究

### (4) 鬩斗目に就いて

定價金二十五錢 送料二錢

東京女子專門學校教授 田窪ミネヨ研究

### (5) 衣冠の研究

定價金四十五錢 送料二錢

東京女子專門學校教授 岡本すみ研究

### (6) 古代オリエントの服装のデザインと裁縫

定價金五拾錢 送料四錢

東京帝國大學助教授 文學士 青木誠四郎研究  
東京女子專門學校講師

### (7) 運針に最も適合せる針の長さに関する研究

定價金三十錢 送料二錢

### (8) 針供養に就いて

定價金十五錢 送料二錢

東京帝國大學助教授 文學士 青木誠四郎研究  
東京女子專門學校講師

### (9) 裁縫科の好惡とその理由に就て

定價金三十錢 送料二錢

東京帝國大學助教授 文學士 青木誠四郎研究  
東京女子專門學校講師

### (10) 裁縫に於ける運針の重要性に就て

定價金三十錢 送料二錢

渡邊女學校出版部

東京市本郷區湯島六丁目  
電話小石川<sup>05</sup>八〇五二番・八〇五三番・八〇五四番  
振替口座東京一九八二〇番



昭和十一年二月五日印刷  
昭和十一年二月十日發行

定價金 30 錢

著者

青木誠四郎

發行者

東京女子專門學校 研究部  
渡邊女學校  
代表者 渡邊 滋

發行所

東京市本郷區湯島六丁目  
渡邊女學校出版部  
電話東京一九八二〇番

印刷人

東京市淀橋區西大久保三ノ一〇六

山口誠造

K80.8

<del>K70.7</del>
A53
10

375.5

昭和44年4月 日  
資學 375


昭和 年 月 日  
8133

100757

K8  
Ke  
生活